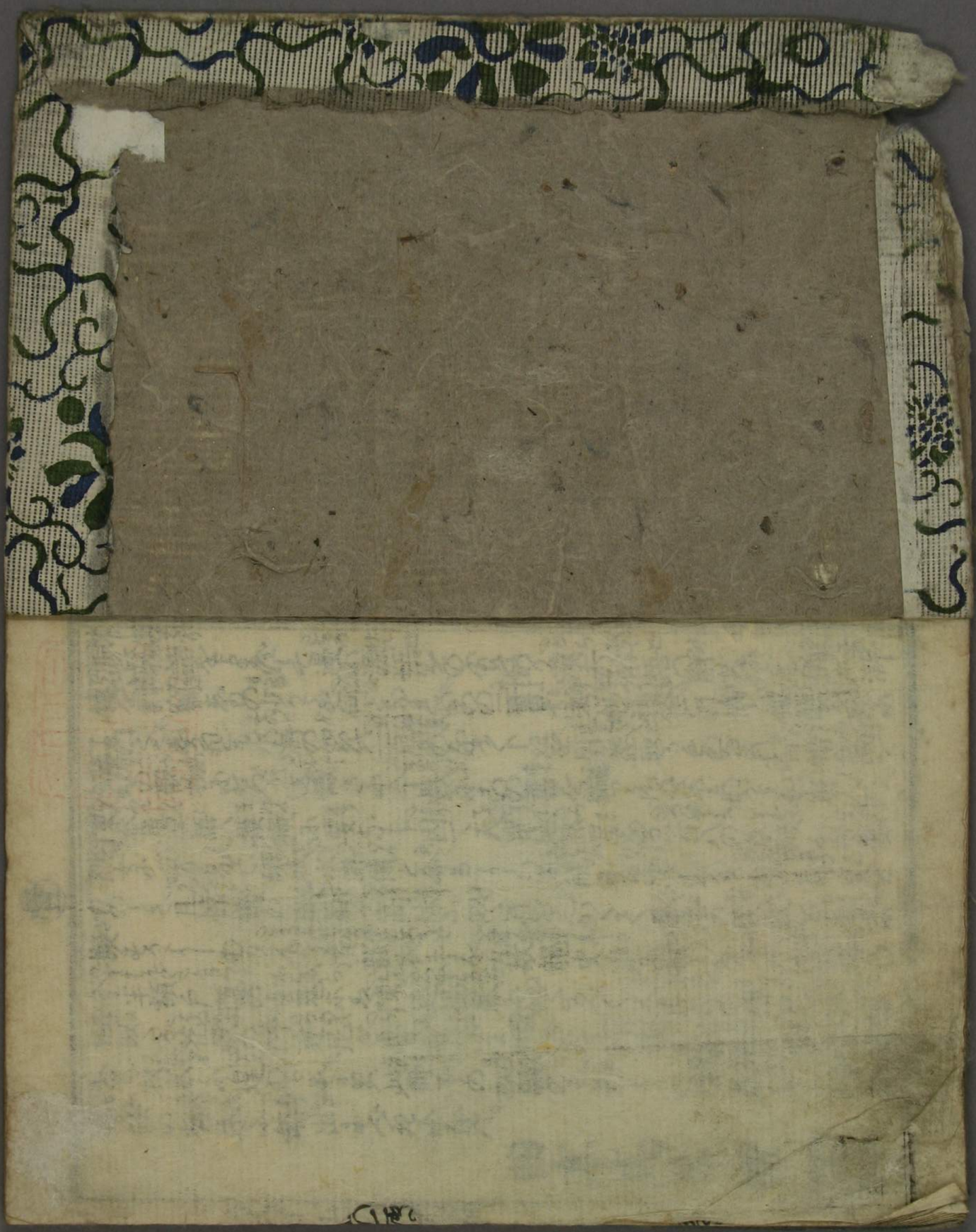
曲亭馬琴著

傾城水滸傳第初編

歌川國安画

上帙巻之上

へ遠13
1964
1



源氏物語をとりまぜて漫わ源語をのかれり漢土の俗語ハ解せねども猶水滸傳を剽竊鞫ゑのゆゑ何とかまぜの二書ハ考れ通俗ゑ彼と擇解ゑ紀ふ

ゆゑ[illegible]れども水滸の如くハ一百回のかゝ[illegible]ハ皆悉取るものゑれハ可惜題ゑ

婦幼の觀物ふせゑゞ迷惑さふ今戯ふ[illegible]の書を編やまちの[illegible]れゞ毛唐人の

東窗異語ハ摸擬ふ要ちゝ因て天罡地煞星ゆる一百八の草賊を賢妻

烈女ふ綴り易て傾城水滸傳と名るゝハ濫觴ふ室津海ゆる遊女長ゞ支を

のゝゝく且椋橋の亀菊ゞ高休ふ似ゞ[illegible]ゞ[illegible]く華洛の綾按と王進ふ

擬もろゝゝゝゝ又浮潛龍衣手を九紋龍史進ふ擬ゝ[illegible]の他紙路乃

今半額戸隱の女鬼ふ陳達楊春ふ似ゞ[illegible]ゞ又虎尾の櫻戸ゞ林中の

相似ゝる花殼の阿達尼ゞ魯智深ゑ相似たゝ折瀧の節ふ柴ハ柴進ゞ壽

ある牧牽ふ皇ゆゝ[illegible]ハ此冊子の初編のミ[illegible]の後春毎ゑ真を

接條の桜木ふ鐫出もゞ[illegible]ふ[illegible]

曲亭馬琴識

みなべの三熊野の里なる仙女
無漏海
花を誑り
あ代の山
ひとをする
かうもまるも
まつらむ
狂齋
角の内宮の
めでたの使
おのゝ子
うゝと
いのそ山の
強まどゝ
鶯舞
美福門院の御使立樹局

華洛の綾梭

うけの流し紅

青柳ふちゝ成

蓑笠

浮潛織

衣手

女郎花

戸隠の女鬼

野中の鬼薊

たゞ見よ

のまくさ

越路の半額

閑齋

椋橋の亀菊
月新のあけぼの
浦もうつるまで
人のよの秋の
ねぐらもとめて如ど
丟同
莽
櫻戸の尾虎
捨果て仏ぬき
あとのうらまで
雪ぬぎふる
日の出
愚山人
河豚を
しめ八
花殼の阿逢尼
柴編の瀧折
ナ(ナ)(ナ)(ナ)二番初編

年代記児童講譯

初編全三編近刻

当年上梓

山東庵京山作

此稗史ハ神代のむかしより年代記ふるきの好ミられたる事を補ひあつめ一ツとしてもれなきをもとめ童子のわけもなくたやすくあきらめしめ考るたよりとなるべき紀名ざつ一部なり

年中行事御祝儀日童講譯

初編全三編近刻

全一部二冊

山東庵京山作

此稗史ハ正月の松ゐざりを始として七月盂蘭の事けつりうけのゆゑ事ゆゑ十二月の祝儀日の故事来歴をもつくゆゑ事ゆゑ絵まわらしに年中の祝儀日の日々を考へ早学問のあらまし

拳燭秘書占

中本

全一冊

山櫻連々逸軒 揺舟 合作

あの書ハ拳とあのわ自然とひろ初心の官人ゆゑ拳見のこゝ此の明々傷よあらて弄ものゆゑ

戯場顯微鏡 上帙一冊 下帙二冊 彩色入 黙老漁隱 著 歌川國貞 畫

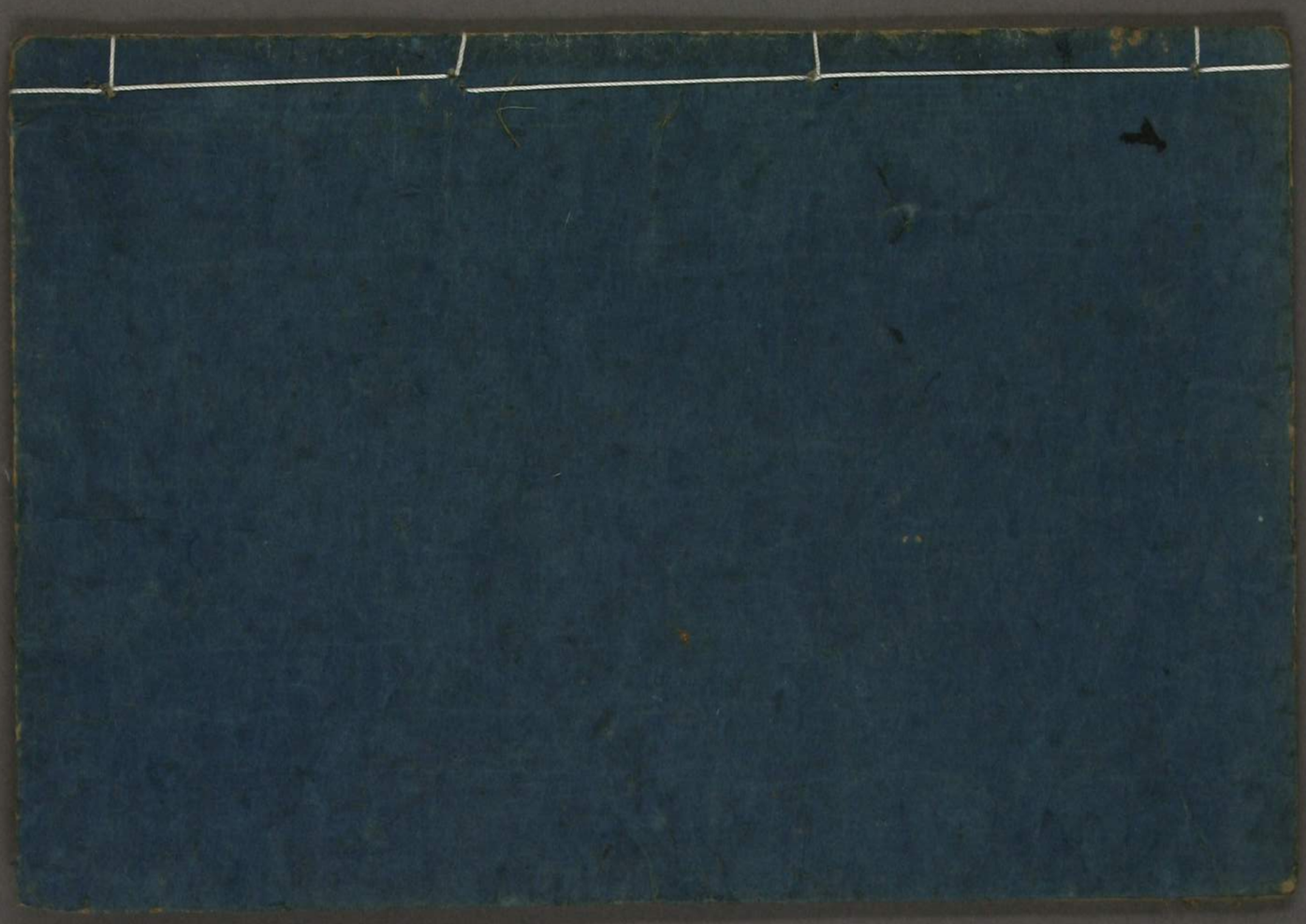
本朝繡像艶容女仙外史 初編 九冊 黙々漁隱 纂案

顯微鏡後編 萬邦劇場談 上下 二冊 黙老漁隱 著

瀧澤篁民 著

迎福南鐵録 一名 相宅手引草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇 大本全五冊 繪入 平假名附 近刻

在書共壱ヶ月解体活版 仙鶴堂小林喜右衛門印行